



あなたがあなたである確率

校長 中村 篤

1月24日、2年生と4年生で助産師による「いのちの授業」を実施しました。

2年生では、まず命の始まりから授業がスタートしました。受精卵の大きさを予想する場面では、ヒントで配られた紙を光に透かし、そこに開けられた針先大の穴の大きさが正解と知ったときは、とても驚いていました。また、代表児童による子宮の模型を使った助産師体験や全児童による赤ちゃん（模型）のだっこ体験を行い、命の誕生について学びました。だっこ体験では、本物の赤ちゃんをだっこするように丁寧に、そして嬉しそうに活動していました。

4年生では、「いのちをつなぐ」をテーマに、2年生で学習した内容の振り返りから授業がスタートし、思春期になるとホルモンが脳から分泌され、体や心にいろいろな変化が現れることや月経、射精の仕組みについて学びました。また、自分の体は自分のものであり、自分で守る「権利」があることをお話していただきました。どの児童たちもからかたりすることなく真剣に話を聞き、命の誕生から成長の過程について理解を深めることができました。

さて、「いのちの授業」を参観していて、ふと過去に録画したテレビ番組のことを思い出しました。いつか理科の授業で生徒に見せたいと思って残しておいたもので、受精から赤ちゃんが誕生するまでの神秘的な映像と共に「人間がこの世に生を受け誕生する確率」について、次のように語っていました。

卵子はすでに胎児の時からあり、その数は100～200万個。新生児では40～80万個、大人では1万6000個と数を減らしていきます。ヒトの一生の最初の一步は、元気な卵子を選ぶことから始まるのです。1万6000個の卵子から、さらにたった一つの卵子が選ばれ、選ばれなかった他の卵子に守られながら毎月1回排卵されます。

精子は数億という数で始まったサバイバルレースでその数をどんどん減らし、卵子に出会う頃には数百にまで減ってしまいます。そして、その中で選ばれた、たった一つの精子だけが卵子と受精することができます。

生涯に生まれる精子の数は約1兆。それを待ち受ける生涯に排卵される卵子の数は約500。一組の男女が2人の子どもを産むとして、その確率は

$$\frac{2}{1,000,000,000,000 \times 500} = \frac{1}{250,000,000,000,000}$$

すなわち、「あなたがあなたとして存在している確率」は「250兆分の1」となります。もし1兆と500のうち、違う組み合わせで誕生したとすると、それはもうすでに今の自分ではありません。

少し専門的な話になってしまいましたが、この話をご家庭でも話題に挙げていただき、お子様へ①あなたがあなたとして産まれてきたことは本当に奇跡的で、かけがえのない存在であること、②そんな奇跡的な存在である自分の命を大切にしてほしいこと、③他の人もそれぞれがかけがえのない存在であるから、まわりの人にも優しい人であってほしいこと、④妊娠してから産まれるまで不安だったことや楽しみだったこと、⑤産まれてきてくれた時は本当にうれしかったこと・・・など、親としての思いをたくさん伝えていただけると幸いです。学校においても「命の大切さ」や「人とのつながりの大切さ」を実感できるような教育に今後とも工夫しながら取り組んでまいります。